

シナリオ分析

シチズングループでは、気候変動に伴うリスクと機会
は、自社の事業戦略に大きな影響を及ぼすとの認識のも
と、以下のプロセスを通じて気候変動に伴うリスクと機
会を特定し、サステナビリティ委員会事務局が中心とな
り、1.5℃シナリオおよび4℃シナリオを用いて分析し、
重要性を評価しました。

気候変動に伴うリスクと機会の特定プロセス	
プロセス1	気候変動に伴うリスクと機会を網羅的に抽出しました。
プロセス2	抽出したリスクと機会について、「時計事業」「工作機械事 業」「デバイス事業」「電子機器他事業」の4つの事業との 関連性および短・中・長期の3つの時間軸で整理しました。
プロセス3	整理したリスクと機会について、「自社にとっての影響 度」および「発生可能性」について、5段階評価を行いまし た。総合評価として、「自社にとっての影響度」と「発生可 能性」が共に高い項目を抽出し、重要なリスクと機会を特 定しました。

シナリオ分析結果と戦略（自社の対策・施策）

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、「シ
チズングループ環境ビジョン2050」を策定しました。
シチズングループは、2050年までに工場・オフィスか
らのCO₂排出量実質ゼロを目指しています。また、サブ
ライチェーン全体における、気候変動に関するリスク把
握に努めています。

当社グループは、低炭素経済への移行を機会と捉え、
再生可能エネルギーや省エネルギー設備の導入に投資し
ており、ICP導入による低炭素融資の促進や、環境配慮
型製品の開発・生産を通じた製品競争力の向上にも取り
組んでいます。

1.5℃シナリオにおいては、炭素税の導入を含む規制
強化によるコスト増や、原材料等の価格上昇リスクが想
定されます。当社グループは、「シチズングループ環境目
標2030」「シチズングループ環境ビジョン2050」の達
成に向け、脱炭素化の取り組みを推進するほか、GHG排
出削減投資促進のためのインターナルカーボンプライス
制度の導入を検討しています。

4℃シナリオにおいては、原材料の安定的な確保のた
め、多角的な調達先の確保や適切な部材調達管理を推進
していきます。また、気象災害を含むBCP対策や災害対
策関連投資の促進などを行っています。

シナリオ分析結果

区分		重要 リスク／機会		シチズンへの影響	時間軸		
		1.5℃	4℃		～ 2024	2025 ～2030	2031 ～
移行 リスク	政策・法規制	大	小	●新たな法規制（カーボンプライス制度）の導入・強化によるコスト増加		●	●
	技術及び市場	小	大	●原材料等のコスト増加、供給不足・供給停止		●	●
	レピュテーション	中	小	●気候変動への対応遅れなどによる評価・評判の下落、それによる株価・売 上の低下	●	●	●
物理的 リスク	急性リスク	小	大	●自然災害による被災の激甚化・頻度の増加		●	●
	慢性リスク	中	大	●異常気象の影響や対策に事業支出が増加		●	●
		小	中	●サプライチェーン寸断による生産活動の停滞		●	●
機会	エネルギー・資源効 率	大	小	●省エネルギー化の推進によるコスト削減		●	●
		中	中	●省資源化、3R、廃棄物ゼロエミッション、水資源の保全によるコスト削減	●	●	●
		中	小	●代替素材での製品開発による差別化・競争力の向上 ●物質代替・軽量化によるライフサイクルでの脱炭素の実現		●	●
	製品、サービス・市 場	中	小	●環境配慮型製品／サービスの需要増による収益増	●	●	●
	レジリエンス	中	中	●自然災害対策を進めることで顧客からの信頼向上	●	●	●
		中	大	●計画的な対策の実施により物理リスク被害を最小限化	●	●	●

※ リスク評価の結果、1.5℃シナリオ、4℃シナリオともに重要度が「小」と判断されたものは、掲載をしていません。

財務影響分析

シナリオ分析の結果を元に、シチズングループの財務
影響に大きな影響を及ぼす可能性のある右記の2項目に
ついて財務影響を特定しました。

なお、シチズングループでは、適正な低炭素投資の促
進と社員の意識改革を目指して、社内炭素価格（ICP）制
度の導入を検討しています。

指標と目標

シチズングループでは、気候変動に関する目標を以下の
通り設定しています。

またシチズングループでは、「気候関連の機会」に関する
指標として省エネルギー化の推進によるコスト削減、「資
本配分」に関する指標として省エネ・再エネの設備投資金
額を設定しており、継続してモニタリングしていきます。

SBT 認定の取得

シチズン時計は、2030年に向けた当社の温室効果ガ
ス排出量削減目標「シチズングループ環境目標2030」が、
パリ協定を達成するために科学的根拠のある水準と認め
られ、SBTイニシアチブ※から認定を取得しました。

「シチズングループ環境目標2030」温室効果ガス排出量削減目標

●スコープ1、2：50.4%削減（2018年度基準）

●スコープ3：カテゴリ1＋カテゴリ11の30%削減（2018年度基準）

※「SBTイニシアチブ」：WWF、CDP、世界資源研究所（WRI）、国連グローバル・コンパクトによる共同イニシアチブ。企業に対し、気候変動による世界の平均気温の上昇を、産業革命前と比べ1.5℃に抑えるという目標に向けて、科学的知見と整合した削減目標を設定することを推進している。



SCIENCE
BASED
TARGETS

DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

Science Based Targets (英語)
➡ <https://sciencebasedtargets.org/>

日本気候リーダーズ・パートナーシップに加盟

シチズン時計株式会社は、持続可能な脱炭素社会実現
を目指す企業グループ「日本気候リーダーズ・パートナ
ーシップ」（JCLP）に賛助会員として加盟しました。

シチズングループでは、2020年4月に改定した「シチ
ズングループ環境ビジョン2050」において、GHG排出
量を実質ゼロにする脱炭素化や持続可能な資源の利用に
コミットしています。特に中期経営計画2024で特定し
たマテリアリティの1つ「気候変動への対応と循環型社

会への貢献」への達成に向けては、2023年1月にSBT
認定を取得するなど気候変動の取組みを強化しています。



日本気候リーダーズ・パートナーシップ
➡ <https://japan-clp.jp/>

シチズングループの環境についての基本的な考え方

シチズングループは、「市民に愛され市民に貢献する」という企業理念に根差し、創業以来、人や環境に配慮したもののづくりを常に心がけてきました。グループの環境施策の根幹となる「シチズングループ環境方針」を2019年12月に改定して、持続可能な市民社会の実現を目指すグローバルな環境経営を推進しています。また、CO₂排出量を実質ゼロにする脱炭素化や持続可能な資源の利用にコミットメントする「シチズングループ環

境ビジョン2050」を2020年4月に改定し、「シチズングループ資源循環ビジョン」も新たに策定しました。SDGs達成に向けた5つの目標「シチズングループ環境目標2030」も外部環境の変化に即して2022年2月に改定を行い、お取引先様も含めたバリューチェーン全体で環境に配慮する「サステナブルファクトリー」での生産活動を通じて、「サステナブル経営」を実践していきます。

シチズングループ環境目標 2030 (2023年4月 改定)

SDGs達成に向けたグローバルな環境経営を推進し、脱炭素社会、資源循環型社会、安心・安全で心豊かな社会の実現に貢献します。

1. 地球温暖化対策の推進 (省エネ化、再エネ化、気候変動への適応)	
温室効果ガス排出量 スコープ1、2	50.4%削減 (2018年度基準)
スコープ3	カテゴリ1＋カテゴリ11の30%削減 (2018年度基準)
再エネ比率	62% (国内)

2. 持続可能な資源の利用の推進 (省資源化、3R、水資源の保全)	
再資源化率	90%
取水量	35%削減 (2018年度基準)
排水の水質を向上させる	
3. 環境リスクマネジメントの強化、環境事故ゼロの継続	
PRTR法対象化学物質	45%削減 (2018年度基準)
4. 全事業所で自然保護活動、地域環境活動の実施	
5. サステナブルプロダクツの提供、製品含有化学物質管理の強化	

グローバルな環境マネジメントシステムの構築

シチズングループでは、ロードマップにも掲げたグローバルな環境マネジメントシステム (EMS: Environmental Management System) の強化・統一に向けて、国際規格であるISO14001の基準を満たすEMSの構築を国内外で進めています。国内に関しては、シチズン時計が中心となり全体のEMSの方針や目標を定めており、グループの環境負荷の大半を占める製造拠点において、ISO14001の統一認証を全拠点で取得しています。海外に関しては、拠点ごとにISO14001認証の取得に取り組

んでいる状況ですが、国内と同様の考え方、方針に基づいたEMSの構築を進めています。ISO14001の再認証審査にあたる2023年度は全拠点を対象に審査が行われ、認証適合と判断されました。製造拠点以外の販売拠点等についても同様の考えに基づいた環境活動の徹底を推進しており、こうしたグループ全体の取り組みが、より実効性の高いEMSの構築に繋がっています。

「サステナブルファクトリー」確立に向けた有害化学物質の削減への取り組み

「サステナブルファクトリー」の確立に向けて、PRTR法対象の有害化学物質の削減をグループ全体で推進しています。具体的には、使用量が多い対象物質を代替物質に移行する取り組みを進めており、製造工程において最も使用量が多い1-プロモプロパンの代替を重点的に進めています。その他の物質についても、代替化や削減に各

拠点で取り組み、グループ内で取り組み状況を共有しています。実際に生産される製品についても、グローバル環境規制動向を踏まえた上で、製品含有化学物質規制の対象物質を含まないことを前提とするなど、製品の設計・製造段階から化学物質の削減・排除に取り組んでいます。

生物多様性保全への取り組み

生物多様性保全活動の推進

シチズングループでは、グループ生物多様性ビジョンに基づき、事業を行う地域の生物多様性に関する課題解決や保全活動を継続して行っています。シチズン時計では、シチズンブランドの腕時計の購入時にボックス (時計を入れる箱) 不要を選択することで、国際NGO「NICE」を通じてマングローブの苗1本を寄付する『Eco Tree ACTION』を2020年から始めています。また、シチズン時計では紙で印刷していた9言語

の取扱説明書の電子化を同年から進めており、年間でCO₂排出量20トン削減 (杉の木1,400本の年間吸収量に相当)・紙は37トン (バス3.7台分) の削減効果が得られています。またシチズン時計では、2030年までに国土の30%以上を自然環境エリアとして保全する環境省の「30by30 (サーティ・バイ・サーティ)」に賛同し、2023年度に同アライアンスに参画しました。

「CITIZENの森」緑の認定SEGES「そだてる緑」を取得 (シチズン時計)

2019年に地域災害予防として、老朽化した工場を撤去、工場立地法緑化率を満たすためその跡地を緑化、「シチズンの森」が誕生しました。2021年には事業所初のグッドデザイン賞を取得、2023年にはSEGES (社会・環境貢献緑地評価システム)「そだてる緑 Excellent Stage1」も取得しました。従業員のウェルネス向上、地域の環境改善の視点に立ち、武蔵野の雑木を形成する在来種によって緑を構成しました。生態ネットワークに配慮し、鳥や虫の飛来しやすい場を提供しています。今後も植栽管理計画に基づき緑の維持管理と自然・生物との共生に努めます。



ニュースリリース：シチズン本社 東京事業所
緑の認定SEGES「そだてる緑」を取得
➡ https://www.citizen.co.jp/release/news/detail/2023/20230412_1.html